

第6回 **ユニセフ ラブウォーク in いわて** お父さん・お母さん・お友達と一緒に参加しませんか!



5月22日(日)
 会場 盛岡城跡公園広場 ※スタートゴール/5km・10km
 受付 8:30～ 出発式 9:15
 スタート 10km…9:30 5km…9:45
 参加定員 300名
 参加費 大人…500円 子ども(18歳未満)…200円
 (共にユニセフ募金、保険の費用を含む)

お申し込みは 申し込み先
 住所・氏名・年齢・コースを明記の上、TEL・FAX・Eメールいずれかでお申し込み下さい。(電話の場合: 月～金 10時～16時)
 第6回ユニセフ・ラブウォーク in いわて実行委員会
 〒020-0690 滝沢市土沢220-3 いわて生協本部2階
 TEL:019-687-4460 FAX:019-687-4491
 E-mail:sn.iunicef_iwate@todock.jp

岩手県ユニセフ協会設立15周年記念 **ユニセフ平和チャリティーコンサート** ~とどけよう! 世界の子どもたちへ~



全日本合唱コンクールで金賞受賞の岩手県立不来方高校音楽部を迎えて、花巻市民には毎回大好評のユニセフ平和チャリティーコンサートを開催。
2016年 7月23日(土)
 13:30～16:00
 花巻市民文化会館 大ホール
 協賛券:500円 (高校生以下無料)
 ●共催 花巻市

協賛券販売 岩手県ユニセフ協会花巻友の会 (花巻市愛宕町 妙円寺) ☎0198-23-5439

熊本地震で被災されたみなさま、心からお見舞い申し上げます。

熊本地震で被災されたみなさま、心からお見舞い申し上げます。熊手県ユニセフ協会ははじめ、佐賀県、宮崎県、鹿児島県、久留米ユニセフ協会のみなさまには、東日本大震災では大変お世話になりました。みなさまが一日も早く日常生活を取り戻すことができますようお祈り申し上げます。
 岩手県ユニセフ協会役員・ボランティア一同

あしがき



ユニセフは、紛争や自然災害などの緊急事態が発生した際、子どもたちを守る活動を迅速に行っています。

日本ユニセフ協会は、ユニセフ本部からの情報に基づいて、その被害状況などに応じて緊急募金を行っています。ユニセフ協会にお寄せいただきました緊急募金は速やかにユニセフ本部を通じて現地事務所へ送り、被害にあった子ども達のために活用させていただきます。
 2016年4月16日、エクアドル大地震では、6つの州で大きな爪痕を残し、被災した子どもたちは15万人といわれています。緊急支援は自然災害緊急募金となります。



現在、受付中の緊急・復興募金
 ネパール大地震緊急募金 シリア緊急募金
 自然災害緊急募金 人道危機緊急募金 アフリカ緊急募金

いわて生活協同組合・岩手県学校生活協同組合 2015年度募金贈呈式

2016年4月19日 二生協の2015年度の募金贈呈式が行われ、いわて生協内澤祥子副理事長、岩手県学校生活協同組合川村元常務理事から、三浦宏県ユニセフ協会会長に目録が贈呈されました。

いわて生活協同組合 …636万6,255円
 ●ネパール大地震緊急募金 387万2,079円
 ●東ティモール指定募金 110万円
 ●その他一般募金
 岩手県学校生活協同組合 …204万700円
 ●東ティモール指定募金 20万円
 ●その他一般募金
 ●学校児童会・生徒会募金 43校

賛助会員として世界の子どもたちを応援してください

ユニセフ日本委員会として、日本国内での募金活動、広報およびアドボカシー(政策提言)活動を担う日本ユニセフ協会を、年会費によってご支援いただく方法です。会員登録をいただき、日本ユニセフ協会の機関誌やさまざまなユニセフの資料を通して、世界の子どもたちのおかれている状況について理解を深めてみませんか。国内で行われるユニセフ協力活動の情報を入手し、さまざまなイベントにご参加ください。

賛助会員の種類・会費・会員期間

種類	対象	賛助会員	賛助会員期間
①一般賛助会員	個人の方	1口 5,000円	入会月～1年間
②学生賛助会員	18歳以上の学生の方	1口 2,000円	入会月～1年間
③団体賛助会員			毎年4月～翌年3月までの1年間

◆15周年イベント参加のアグネス・チャン大使、あふれるような愛情をこめ世界の子どもたちや東日本大震災の被災地のみなさんとのふれあった感動的なお話に涙しました。子どもたちとの合唱は、心に響く温かさを感じました。大槌町からご参加のみなさまありがとうございました。私たちはわすれません。
 ◆日本ユニセフ協会の2015年度の募金総額は、東日本大震災以前に回復しています。ネパール大地震緊急募金の影響が大きく、通常の募金への呼びかけが課題です。(事務局)



Iwate Association for UNICEF

~3.11 私たちはわすれない~
 岩手県ユニセフ協会設立15周年記念式典
 東日本大震災緊急復興支援報告
 アグネス・チャン大使講演会



式典では、県ユニセフ協会の活動報告、長年県ユニセフ活動にご協力いただいた学校・団体に感謝状を贈呈しました。(盛岡市立上田小学校、盛岡市立河南中学校、花巻市立南城中学校、岩手県立不来方高校音楽部(イタリア演奏旅行中)、盛岡大学生生活協同組合学生委員会、盛岡レオクラブ、盛岡市ウオーキング協会)

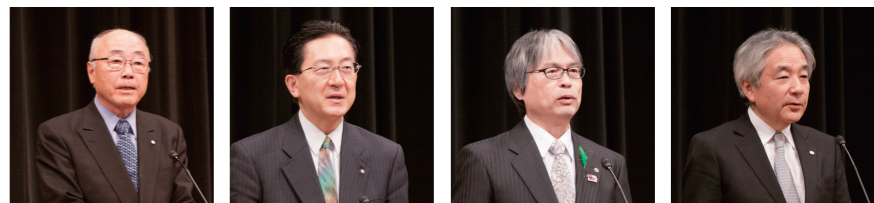


▲感謝状贈呈
 東日本大震災緊急・復興支援報告では、(公財)日本ユニセフ協会東北代表、学校事業部長・水野真里子氏からの報告がありました。

2016年5月
 【発行】
 岩手県ユニセフ協会
 (旧 日本ユニセフ協会岩手県支部)
 〒020-0690
 岩手県滝沢市土沢220-3 いわて生協本部2F
 TEL 019-687-4460 FAX 019-687-4491
 e-mail : sn.iunicef_iwate@todock.jp
 ホームページ http://www.unicef-iwate.jp/



2016年3月27日、盛岡市民文化ホールで県ユニセフ協会15周年記念イベントが開催され、600名が参加。東日本大震災から世界につながる子どもたちの笑顔と、ユニセフ活動にふれた感動的なひとときとなりました。
 記念式典のオープニングに登場した大槌町雁舞道七福神会の子ども七福神おどり、三浦宏会長(岩手日報社代表取締役会長)の挨拶、来賓として岩手県知事達増拓也氏、盛岡市長谷藤裕明氏(代理副市長佐藤光彦氏)、(公財)日本ユニセフ協会専務理事早水研氏からご祝辞をいただきました。



▲岩手県ユニセフ協会 会長 三浦 宏 挨拶 ▲来賓 岩手県知事 達増拓也氏 ▲来賓 盛岡市長代理 副市長 佐藤光彦氏 ▲来賓(公財)日本ユニセフ協会 専務理事 早水 研氏

アグネス・チャン大使講演 ~世界の子どもたちと東日本大震災~

アグネス・チャン大使講演のオープニングに登場した大槌キッズコーラス、あぐどめとキャラホール少年少女合唱団の子どもたち総勢100名。震災から5年間、ふれあい交流でつながった合唱でした。
 アグネス・チャン大使は、日本ユニセフ協会大使として視察した、タイ・南スーダン・中央アフリカ・フィジーで出会った、貧困や紛争の中で生きる子どもたちの状況をお話されました。人身売買や少年兵のことにふれ、ユニセフの支援をお話されました。

東日本大震災では、たびたび岩手県を訪れ被災された方々を励ましてきました。その時に会った女の子のお話は、涙を誘いアグネス・チャン大使のやさしさを感じるものでした。これからもユニセフ・アジア親善大使としてのご活躍をお祈りいたします。
 最後に出場した子どもたちと「ふるさと」を、会場のみなさんと大合唱し、あたたかく、感動的な15周年イベントを締めくくりました。



▲閉会挨拶する加藤善正副会長

参加したみなさまからの感想から

- ユニセフの活動を知ることができた。その力の大きさも知ることが出来た。その活動に守られた子どもたちはのびのびとすばらしい歌を聞かせてくれました。七福神もすばらしかった。
- 子ども七福神を初めて見ましたが、何ともかわいい!!一生懸命練習したのだらうと感激。合唱は心があらわれる清々しい歌声に元気をいただきました。ありがとう!! アグネス・チャン大使、大変な活動をしていらっしゃるのです。素晴らしいです。貴重なお話を拝聴出来、本当に来てよかったです。
- 子どものために多くの人たちが力を合わせていることが、改めてわかったし、これからまだまだ支援が必要だということも伝えてくれた。3.11の当初の必死に支援していたが、いつの間にか日常に紛れてしまっていたことも反省できた。

～15周年記念イベントに参加して～

- 子どもの人身売買はテレビで見て現在のこの世の中にもまだ、こんなことする国があるんだと思って見てましたが、今日アグネス・チャンさんの話を聞いて心が痛んだ。
- 貧困が全ての源になっていると再認識。気候変動って地球温暖化の話で、ゆううつになった。格差はなくなると思うけど、せめて差が小さくなったと思える世の中になればいい。
- Build Back Better とthink globally, act locally を胸に私たち子どもたちを支援していきたいと思えます。
- 地域も、世界も皆つながっているということ、さすがユニセフと思いました。ありがとうございました。
- できることから、私も共に歩んでいきます。

感謝状贈呈の学校からお手紙が届きました

ユニセフの活動で学んだこと

(小)
上田中学校1年 柄内 弓華

私は、5年生の時にユニセフの方から、話を聞いたことがあります。そして自分が思っていたより貧しい国が、たくさんあることを知りました。そこには、うでが細く、今にもたおれてしまいそうな子どもたちがたくさんいました。どうしてこんなに貧しい国になってしまったのか、かわいそうだなと感心してました。ユニセフの募金は見たことはあったけれど、あまりできていなかったのので、この授業をきっかけに、少しでも募金をするようになりました。募金をする人が、もっとたくさん集まればいいなと思いました。



記念式典に参加して

南城中学校3年 中里 萌

私たち南城中学校イーハトーブ委員会、毎年12月にユニセフハンド・イン・ハンドの募金活動を行いました。そして「若手県ユニセフ協会設立15周年式典」という輝かしい式典に、感謝状贈呈のため、招待していただくことになりました。それを先生から知らされたとき、驚きと嬉しさで胸がいっぱいになりました。

この式典は、私の将来の夢を強く後押しするものとなりました。

2011年3月11日。あの日、あの時私たちを暗闇へと突き落としたあの地震。津波により多くの人が犠牲になりました。私はこの式典で行われた活動報告DVDを見るまで、考えもしなかったことがあります。それは母親を亡くした父親と子どもたちのことです。母親が子どもを育て、父親が働きに出る。そんな日常を一緒に暮らしていた津波。震災以降、父親が子どもを一人で育てる家庭が増えたそうです。そこで、ユニセフでは、子育てに不安がある父親を対象とした「お父さんの子育て支援」という研修、を行っているそうです。それは、子育ての研修はもちろんですが、同じような境遇にあった父親同士で助け合ったりできるようにという、つながりの輪を広げる重要な場でもあるそうです。

私には将来の夢がたくさんありますが、何より興味があるのが、ラジオ局で働くことです。災害が起きてても、ラジオがあれば聴く人々によりそうことができ、安らぎや勇気、希望や楽しさを与え、笑顔にしてあげられることでしよう。私は持ち前の明るさと元気の良さを、人々に笑顔を届けられる、そんな仕事につきたいと、今日の式典に参加して、より一層強く思うようになりました。

今回の受賞をきっかけに、学校でも私たちにできることは何かをもっともっと考えていきたいと思えます。

「ユニセフ外国コイン募金」 「書き損じハガキ・使用済み切手」 に協力してください!!

旅行や出張で海外に行って、残ったコインを世界の子どもたちのために役立ててみてはいかがでしょうか。書き損じハガキ・使用済み切手も若手県ユニセフ協会では受け付けています。昨年度のお礼状が届きました。



復興への道のり、いまだ途上 教育の再開、感染症の防止など成果の一方、 日常を取り戻す一層の努力を



依然として復興の道半ば



▲母親と一緒に毛布にくるまる4歳の子ども

2015年の震災は、ネパール経済に大きな打撃を与えました。1年が経過した今、被災地の子どもたちやその家族たちは、まだ多くの支援を必要としています。それは

家であり、安全な校舎であり、生活の改善につながる支援です。震災後、避難所に身を寄せた18万8,900人の人々のうち、85%以上は避難キャンプを退出していますが、未だ2万6,272人がキャンプで生活を送っています。倒壊した70万戸の家屋の再建は始まったばかりですが、それらの建設は、今後数カ月で加速されなければなりません。子どもたちやその家族たちは、その間も、崩れた家のそばで避難生活を続けなければならないのです。避難施設の不安定な環境下で暮らしている子どもたちは、人身売買を含むさまざまな危険に晒されています。

人身売買のリスクも

2015年4月25日から2016年2月12日までの間に、合計で850人の子どもたちが、警察によって人身売買などのリスクから守られました。平均すると1カ月に89人というこの人数は、2014年7月から2015年7月までの1カ月平均である69人よりも多くなっています。



▲ユニセフが支援する仮設の学習センターで笑顔を見せる女の子。

ユニセフ・ネパール事務所代表の穂積智夫はこれに関して、「数字が増えているということは、地震の結果子どもたちの危険が増大していると考えられますが、同時に、ネパール国内で警戒が高まっている証でもあります」と述べました。

震災後、ユニセフはネパール政府やパートナー団体とともに、保護者のいない子ども3万9,337人を見つけ出して登録しました。そのうち、1万3,317人は必要な緊急の支援を受けました。

ユニセフの支援



▲上腕部を測り、栄養状態の検査を受ける子ども。

ユニセフ・ネパール事務所代表の穂積智夫は、「昨年の大震災では、3万5,000もの教室が倒壊、あるいは、ひどく損壊してしまいました。その後、教育の空白を最小限にするためにも、また子どもたちを暴力や搾取、ネグレクトから守るためにも、一刻も早く学校を再開すべく大変な努力がなされてきました。そのおかげで、被災地域の学校は、最初の地震から1カ月後には仮設の教室で授業を再開することができました。私たちは今、子どもたちができるだけ早く、暫定的もしくは恒久的な教室で、より安全に勉強ができるよう、一層の努力をしなければなりません」

ネパール大地震から1年 報告書

ネパールを襲った大地震から1年。地震直後から支援活動を続けるユニセフ・ネパール事務所は、この1年の成果と今後の活動をまとめた報告書「Nepal Earthquake: One Year Later - Moving On」を発表しました。



片付かないままのカトマンズ近郊



▲カワトク前

昨年10月末、里帰りした松原杏寿さん(ネパール出身、盛岡在住17年、県ユニセフ協会ボランティアスタッフ)は、実家のあるカトマンズ近郊を回ったが、道路、水道、電気も復旧せず、薪を使って食事の準備をしていた。タンクや川から水を汲んでくる生活が大変です。実家は大丈夫だったが、公的な仮設住宅はなく自分たちでトタンなどで作った家に2~3家族で住んでいた。観光・商業がだめになり経済的なダメージが大きいと思う。

ハンド・イン・ハンド街頭募金活動

毎年、590万人の5歳未満の子どもたちが命を失っています。そのほとんどは感染症や下痢、栄養不良予防など本来防ぐことができる原因によるものです。

2015ハンド・イン・ハンド街頭募金活動 387名のボランティア (ボランティア参加 生徒・学生320名、一般67名)
★花巻 2015年12月5日 ★盛岡 2015年12月12~13日・19日
★テマ、すべての子どもに5歳の誕生日を

世界の子どもたちが5歳の誕生日を迎えられるように・・・

2015 ハンド・イン・ハンド街頭募金活動は、花巻市12月5日、盛岡市12月12~13日、19日八幡平市内で実施し、中学生・高校生・大学生・一般ボランティア387名が参加しました。ユニセフ募金額は584,657円でした。

「私もユニセフのお世話になったのですよ。」とリュックからお財布をだす年配の方。「ノーベル賞をとった大村さんは、感染症を防ぐ薬を発見し子どもたちを救っていますね。」など、多くの方々とのふれあいがありました。「おつかれ様」や「がんばって」とご協力してくださった方々に言ってもらって、人のぬくもりを感じる事ができた。命の尊さをあらためて考えることができた。自然と笑顔になれる活動だった。次回も参加したい。」



▲カワトク前



▲アネックスカワトク前



▲MOSSビル前



▲イオンモール盛岡南

ユニセフ出前講座



▲1月28日
岩手大学教育学部社会科教育科
子どもの権利条約について学ぶ。



▲1月21日
金ヶ崎町立三ヶ沢小学校
5歳の誕生日を迎える前になる世界の子どもたちのことを考え、ユニセフの支援について学びました。

ユニセフハウスを見学



4月、岩手県内の中学校8校が東京都品川にある(公財)日本ユニセフ協会(ユニセフハウス)を視察。展示スペースは、世界の子どもたちのくらしやユニセフの活動に出会える場所です。個人でも訪問できますが、グループでの訪問や説明は事前予約が必要です。

学校関係(学校事業部)

TEL 03-5789-2014
FAX 03-5789-2034

団体関係(団体・企業事業部)

TEL 03-5789-2012
FAX 03-5789-2032